

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372500553		
法人名	社会福祉法人 衣川会		
事業所名	グループホームはごろも (ユニットⅡ)		
所在地	〒029-4471 岩手県奥州市衣川古戸45番地		
自己評価作成日	令和6年8月20日	評価結果市町村受理日	令和6年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方一人ひとりの気持ちや思いを大切にしながら、普段からコミュニケーションをたくさん取れるように日々の関わりを持つようにしている。認知症状により不穏状態の時も「その方の行動の裏側には何があるのか」「もし自分が同じ状況だったら」と考え、理解しながら理念にもある『寄り添うケア』となるように心がけている。
衣川診療所と隣接しており定期通院や体調不良の際には職員が通院対応する為情報共有がスムーズに行える。また職員に医療職はないものの、併設の特養看護師とも連携しており入居者の体調で気がかりなことは相談、助言をいただき、入居者の方が安心して生活できる環境である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

衣川中心地区の自然環境に恵まれた広い敷地内にあつて、事業所を統括する法人本部のほか、系列の特別養護老人ホームやデイサービスセンター、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターとも隣接している。法人本部や特養は、隣り合う国保衣川診療所や、市衣川総合支所、衣川保健センター、市社会福祉協議会支所とエレベーターや通路で繋がっている。また、同法人は、地域包括支援センターの事業や生活支援ハウスの管理業務を市から受託しており、衣川地区における保健・医療・福祉の拠点機能としての役割の一端を担っている。こうした行政との一体的な協力連携関係は法人としての信頼性を高めるものとなっており、地域に頼られる事業所として、法人や系列施設、関係機関等との連携やバックアップの下、利用者一人一人に寄り添い利用者への介護サービスの提供に日々努力している。コロナ禍により一時途絶えていた事業所と周辺のこども園や小中学校等地域との交流も、徐々にではあるが再開しつつある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月5日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員が目につくところに掲示し、常に意識付けとなるように掲示している。 年度末には、理念について職員個人個人の実践状況を振り返る機会を設けている。	事業所では、「寄り添い」、「信頼」、「結の心」の三つを柱とする法人理念とともに、「ありのままのあなたに寄り添います」とする事業所理念を事務室及び食堂兼ホールの壁に掲げ、利用者や来訪者の目にもつきやすいようにしている。これらの理念の下、年度初めには、認知症の進行防止等を重点項目とする具体的な年度目標を定め、目標達成に向けてサービスの向上に取り組んでいる。職員は、利用者一人一人に寄り添って介護に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルスが5類となったこともあり少しずつ交流の機会が持ってきている。まだコロナ禍以前のように無いが今後法人とも相談しながら交流の機会を設け交流していきたい。	こども園の園児が散歩に訪れて利用者の方々と握手をしたり、あるいは、利用者が縫った雑巾を園に寄付する等、コロナの5類移行後、少しずつではあるが地域との交流の機会は増えてきている。隣接する羽衣荘での相撲部屋力士による慰問訪問の際には利用者も参加し、近隣の方々も参加して賑やかな交流の場となった。地元の方々から、野菜や米など様々なおすそ分けもある。管理者は、以前のように児童クラブやボランティアなど、地域との交流の機会が戻ってくることを望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの相談等があれば対応している。近くの幼稚園に雑巾を寄付できるように、入居者の方々が作業で制作されている。園児が散歩にきた際に渡している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員は地域の住民代表などのほか、入居者の方にもなっている。委員の方からは様々な意見やアドバイスをいただいている。新型コロナウイルスも5類になったこともあり、今後はグループホームを知ってもらい、運営推進委員の方に行事に参加していただけないか検討している。	市の衣川総合支所職員、地域住民、民生委員、入居者も参加して、1月ごとに会議を開催している。会議では、入居者の様子や活動状況などを報告し、資料には活動場面の写真を多数添えてできるだけ様子が伝わるように努めている。毎回、質問や意見が出て、双方向的な会議となっている。夏祭りへの家族の参加について提案があったが、法人の方針もあり、実現に至っていない。議事録は、毎回丁寧に作成し、職員に回覧している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成メンバーとして行政職員に参加していただいております。定期的な意見交換等は行うことができています。また奥州市衣川総合支所が同一エリアにあり、必要に応じて連携を図っている。	衣川総合支所は、診療所を經由して法人本部や隣接の特養と繋がっており、それぞれが連携しやすい環境にある。法人による地域包括支援センターや生活支援ハウスの受託も、市との連携強化に資するものとなっている。市からの情報は、法人本部を通じて入ることが多いが、介護認定申請の代行などで職員が総合支所に直接赴くこともあり、市職員も施設を訪れるなど相互に行き来することが多い。なお、隣接の特養は、市から福祉避難所に指定されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所ごとに身体拘束廃止委員会を組織し、定期的に検討を行っている。また法人研修だけでなく、グループホーム内でも勉強会を実施して意識づけをおこなっている。 玄関の施錠に関しては、防犯のため夕方5時から翌朝6時まで施錠している。	身体拘束廃止委員会を事業所内に設置し、会議を3月毎に開催している。法人本部による研修やグループホーム内での勉強会を通じて「スピーチロック」等に対する注意喚起を行うなど、職員の意識向上に努めている。これまで直接身体拘束に及んだ事例はない。現在、両ユニット合わせて床マットコール、起床センサー、人感センサーをそれぞれ1名が利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの声掛けや対応でもつ適切なケアと感じる時には職員同士声を掛け合い助長されないように注意し合っている。虐待防止の研修会を行い職員全員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用している利用者があり、おおまかな内容については一部職員が把握できている状態である。権利擁護に関して学ぶ機会は少ない為スタッフ会議等みんなが参加する際には勉強する機会をもちたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結の際等は重要事項説明書を用いて説明をおこない、不明な点については詳しく説明する等の対応を行っている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書で事業所や外部評価機関も含めた相談窓口を説明している。また身体拘束適正化、事業継続計画等の内容についても説明を行っている。入居者やご家族様からは都度要望や意見等を話していただけるような関係性や雰囲気づくりを心がけて対応している。	家族が面会に来所の際や電話があったときなどには、要望等も伺うように努めている。利用者からは、日々のケアを通じて意向の把握に努めている。利用者からは帰宅希望など個別具体的な要望はあるが、家族、利用者ともに運営全体に及ぶような要望は少ない。家族会のようなものはないが、利用者には、運営推進会議の委員となり意見をいただくようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なスタッフ会議で意見等を吸い上げ検討し、反映する機会を設けている。変更点があれば、その都度全職員に周知するようにしている。	管理者は、年度末から年度始めに職員面談の機会を設け、人事考課とともに個別に職員から要望や意見、提案等を聞くようにしている。毎月開催しているスタッフ会議を通じて、職員からの意見や提案等を把握し、また、日々の業務を通じても意見等を聞くようにしている。職員から施設や設備に関する意見、要望等があれば、その都度対応を検討しているほか、夜勤など勤務に関することについてもそれぞれの実情を踏まえながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入し実施している。勤務表作成においては個々の家庭状況を考慮し、反映するように作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修計画に基づき全体での研修に参加できるようにしている。また、必要に応じ外部研修にも職員を派遣して学習の機会を設けている。グループホーム内の学習会では職員が講師となり調べた内容について研修している。一人ひとりの資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	奥州北上ブロックの会議等書面決裁があり都度内容確認している。研修会の案内もある為参加して行くように努めたい。		

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人とも会って情報の収集を行い、事前にケース状況を把握している。注意してほしい事等要望がないかご家族から確認するようにしている。入居後もこまめな観察やかかわりの時間を多くもち、新しい生活環境に慣れていただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居決定の連絡、その後の連絡、契約時に困っていること、今後の不安などお聞きするなど関係性作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込み時の本人の状況をお聞きし、必要であろうサービスを助言することもある。また、入居決定時の状況確認の際にどのような関わりが必要か確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるところは職員や他利用者と一緒に行っている。年々できることは少なくなっているが、花壇の手入れや調理用野菜の下準備などを職員が教わる場面もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	広報誌や月次報告では通院対応や健康状況などを月1度発行し生活の状況をお伝えしている。コロナ禍である為面会や外部通院のために家族が来る機会は減少しているが、物品の補充依頼の電話をする際に情報交換を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的なドライブで入居者の自宅近くをドライブルートに入れ自宅の状況を把握できるように努めている。遠方の家族とはオンライン面会や電話を活用し導入して関係が途切れないようにしている。携帯電話を持参されている方も居るので必要に応じて会話ができるように支援している。	コロナ禍の鎮静後も、馴染みの人との間の行き来が思うようにできない中であって、近隣へのドライブを通じて自宅と自宅付近の様子を把握できるようにするなど、利用者に安心してもらう取り組みを行っている。来訪が難しい家族にあっては、電話やオンラインでの連絡を取り持つなどしている。敷地内にあるデイサービスに通所している友人、知人からの声かけが時々あるほか、毎月の訪問理容も、利用者にとっては新たな馴染みになっている。	

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりのペースも大事にしながら、毎日のお茶の時間には一緒に過ごせるか意向確認しながら声掛けをおこなっている。入居者同士が関われるようにコミュニケーションや話題を提供し交流を図るように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関、ご家族からの問い合わせがあれば相談対応に応じている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のコミュニケーションにおいて希望や意向を聞き出す関わりの実践に努めている。また、定期会議において検討する機会を設けている。意思表示が乏しい方には、アセスメントを行いながら職員で情報共有したり、家族から情報収集したりしている。	日々のケアや観察等を通じて利用者の思いや希望の把握に努めている。気づいた点については、アセスメント等を通じて職員間で共有している。利用者の得意とするところに応じ、食器洗い、食器拭き、施設内の掃き掃除や、菜園でのジャガイモの植え付け、プランターでのキュウリ、トマトの栽培などを手伝ってもらっている。好みの食事メニューは、手作りランチの日にみんなで調理して頂いている。自宅に行きたいという外出希望も多いが、コロナ禍後の今も希望に添えない状態が続いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集や入居後においても本人や家族、担当ケアマネジャー等から情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしを観察し把握に努めている。また業務日誌やケース記録において情報の共有を図っている。見落としがないように、重要な内容については、職員の目に入るようにポップを作成し分かりやすくしている。		

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催することができていない。だが、面会や電話連絡があった際要望確認を行い、意見を反映するよう努めている。また定期的な評価や会議において検討している。	介護計画は、介護支援専門員である管理者が中心になって作成している。長期目標は1年、短期目標は6か月としている。モニタリングは居室担当者が行い、カンファレンスを毎月開催し、居室担当者も加わって短期的な評価を行っている。サービス担当者会議は開催することが出来ていないが、6か月ごとの計画の見直しに当たっては、本人や家族から事前に確認した要望や主治医等からの指示、意見も踏まえて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、ケース記録等に認知・精神状態や食事や排せつ等の状況を記録している。それらを活用しながら職員同士で情報共有を図っている。また定期会議において検討する機会を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の状況、ニーズ等に対して対応できるかどうかを明確にした上で相談し、現在のグループホームでできる範囲での支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は書道の講師として地域の方に来ていただいていたが高齢となったため辞退されている。その後作業ボランティアの申し出があり、入居夜の方とのレクリエーション活動を検討していたが、コロナウイルスの感染が落ち着かずまだ開催には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医への対応を取っている。衣川診療所受診の際は職員が付き添い対応している。その他の医療機関を受診される場合には、主治医に文書で情報提供しご家族に対応していただいている。	両ユニットのほとんどの利用者が衣川地区の居住者であり、衣川診療所をかかりつけ医としている。精神科、皮膚科、眼科等も含めその他の医療機関には家族が付き添っている。その際、主治医に「情報提供シート」により本人の病状や生活状況等を伝えている。また、衣川歯科診療所に通院した際には、口腔ケアの指導を受けている。	

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化時や急変時などは緊急時マニュアルを活用し初動対応をとっている。また、併設している特別養護老人ホーム看護師と連携を図り対応正しい判断が得られるように協力を仰いでいる。また、必要に応じて協力医療機関との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際には医療機関へ入居中の状況を情報提供している。入院中は家族や医療関係者と情報の共有を図り、退院時には医師等から生活の留意点などの情報収集を行い、グループホームでの生活でスムーズな支援をおこなえるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、契約書や重要事項説明書等を用いて利用対象者と契約終了の説明をさせていただいている。重度化時には、現時点での状況、今後考えられるリスクの説明を行い、次の生活を考えていただく対応をとりながら他サービス機関への相談援助を行っている。看取りは現在行っていない。	これまで看取りの経験はない。重度化時には、家族の意向に沿い、医療機関との連携も図りながら、入院あるいは隣接の特養への入所等、他のサービスへの移行について相談に応じ支援を行っている。隣接の特養等と連携して系列全体で重度化や終末期に向けた支援を行っているが、利用者は加齢とともに全体的に介護度が高くなり、かなり重度の利用者も入居している。	事業所として、利用者の重度化に応じた専門知識の修習や向上、あるいは重度化対応マニュアルの作成等について、医療機関の協力を得ながら進められることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを目のつく場所に置き対応している。併設している特養看護師の指示や協力医療機関の指示により対応している。会議等で事例検討を含めた緊急時考えられる対応について定期的に確認している。だが訓練は十分とは言えず職員個人個人の実践力には不安がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設と合同で年2回の防災訓練を実施している。法人として地域防災協力隊を組織している。コロナウイルスが5類になったこともあり、今年は地域防災協力隊の方にも参加していただきながら避難訓練を実施することができた。	6月に夜間想定訓練を関連施設と合同で実施した。消防署の講評は概ね良好であった。地域協力隊6名の参加、支援があった。10月には総合訓練を予定している。ハザードマップで、地域指定、避難場所を確認している。事業継続計画(BCP)は作成している。発電機、カセットコンロ、反射式ストーブを設置し、食材は3日分確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で一人ひとりの性格や心身・認知症の状態等の把握に努めている。そして、個々に合った対応を検討し、職員同士で情報交換しながらより良いケアになるよう支援にあたっている。	排泄や入浴の介助の時には、特に本人の羞恥心に配慮し、利用者への言葉遣いや態度が失礼にならないよう注意を払っている。入浴の際に異性介助を嫌がる利用者には、その意向に添った対応を取っている。失禁など排泄に失敗した場合には、周りに分からないよう声がけし、居室かトイレに誘導している。利用者の名前を呼ぶときは、馴れ馴れしくならないよう心掛けている。個人情報や文書をファイルして事務室で管理し、電子情報は、職員個々のパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で思いを表出できるように選択肢を提示して、自己決定できるような声掛けをおこなうように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の意向確認を行いながら、個々のペースで過ごして頂いている。集団で過ごしたい方もいるため状況に応じて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪の際には希望する髪型を確認して美容師の方に伝えている。また日々の中では髭剃り、整髪などの声掛けや着替えの衣類を一緒に選ぶなどの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主なメニューは法人施設の厨房で調理しているが、みそ汁等の具材を切ったり、後片付けなどは行っていただいている。また毎月手作りランチを計画し、昼食やおやつ作りをおこない調理をする機会をもつように支援している。	昼食と夕食は法人の厨房で調理し、配食されているが、朝食は、配達された食材でそれぞれのユニットの職員が調理し、昼食と夕食のご飯とみそ汁も職員が作っている。具材切りなどの調理や配膳、後片付けの中で、利用者が出来ることや好んで行うことを見極め、利用者も職員と一緒に食事の支度を手伝っている。月1回の手作りランチの日には、おはぎやサンドイッチなど、みんなで好みのものを作ったり、七夕会ではちらし寿司、誕生会ではケーキなどの行事食を振る舞うなどして楽しんでもらっている。	

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を立て、一人ひとりの状態に合わせた食事形態で提供している。一日の食事や水分の摂取量は都度チェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛けを行い、入居者の状態に合わせた対応を行っている。必要時には歯科通院をおこない、入居者に合った口腔ケアについてアドバイスを頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	タブレットの警告機能を活用し、個々の排泄パターンを把握しながら排便コントロールを行っている。また、一人ひとりに合わせ、適宜トイレの声掛けや誘導支援するように心がけている。	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、タブレットの警告機能も活用しながら、個々の表情や様子を見てトイレの声掛けや誘導を行っている。現在両ユニットで、綿パンツ使用者は6名、夜間のみ紙オムツ使用者は1名、その他の利用者はいずれもリハビリパンツとパットを併用している。ポータブルトイレの利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔を確認票を活用して便秘とにならないよう、水分量を確保しながら、毎日の日課として体操やレクリエーションをおこなっている。それらを通じて自力排泄を促す取り組みを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	現状では2日おきの入浴となっている。個々の要望に沿った支援は行うことができていないが、拒否がある際などは無理強いしないなどの対応は行っている。また必要に応じて清拭等を行っている。	入浴は、週2回を基本とし、1日3、4人ずつ午前中にマンツーマンで入浴している。入浴を嫌がる利用者には、翌日に改めて勧めるなど柔軟に対応している。季節に応じ菖蒲湯や柚子湯などで、ゆったりとリラックスした気持ちで入浴してもらうようにしている。リフターが備わっており、車いす利用者も湯船につかることが出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動機会を設け、夜間にゆっくりと休んでもいただけるように支援している。また寝不足や疲れがみられる際には日中もホールソファで休んでもいただけるようにクッションや掛物を準備している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容はファイルに整理し、いつでも確認できるようにしている。処方内容に変更があった際は日誌等に記録し情報共有に努めている。また内服時は確実な服薬(飲み込み)まで確認している。		

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの好みや「できる力」に応じて洗濯物干しやたたみ方、調理の下準備、掃除等の家事を分担し、行っていただいている。レクリエーション等では歌ったり身体を動かしたり、笑ったりストレス発散などにつながる機会作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞きながら、天気の良い日には外での日向ぼっこや散歩などを行っている。ドライブを計画して地域の様子を見に出かけている。今後は計画した日以外でも出かけられるようにしていきたい。地域や外部の通院ではご家族の協力を得て外出されている。	天気の良い日には、広大な敷地内を散歩するなど外気に触れる機会が多いが、今年の夏は暑すぎて散歩をずっと控えている。また、年に3回か4回ドライブを計画し、近隣に出かけるようにしている。今年の春は、胆沢ダムや道筋の桜の回廊などを巡って楽しんだ。コロナ禍の鎮静後、出来るだけ戸外に出て楽しむ機会を増やすようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお預かりしている小口現金のほか、事務所の金庫で個人の財布でお金をお預かりしている方もいる。必要時には使用できるようにしているが、使用する機会が少ないのが現状である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ電話の取次ぎをするなどしている。また贈り物や手紙が届いた際には電話をかけ、お相手との交流が図れるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃や冷暖房で快適な室温に保つことなどで安心・安定して過ごしていただけるように努めている。またウッドデッキで野菜を育てたり、季節ごとの装飾も行っている。 なお、感染症対策として定期的な換気や消毒液による拭き掃除を継続している。	玄関から通じる食堂兼ホールには、食事用テーブルやソファ、テレビなどが備わり、各ユニットとも、畳敷きの小上がりやホールの南側にはウッドデッキがあり、プランターで野菜を育てている。敷地内には畑もある。ホールには、エアコン、床暖房、加湿器なども備わっており、温度や湿度を管理して快適さを保つようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	団らん場所から少し離れた所にソファやベンチ・小上がりがあり、入居者の方が過ごしやすくなるような環境づくりをしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームはごろも (ユニットⅡ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	入居に際しては馴染みの物を持参していただ けるように依頼している。また使い慣れた物も認 知症の進行により使用が困難となってきた際は、 本人やご家族に相談しながら居室づくりをするよ うに努めている。	居室の入口には、庇がついており、利用者が自 分の居室を間違わないように、それぞれ氏名と 顔写真が表示されている。居室には、ベッド、ク ローゼット、洗面台等のほか、ナースコールも備 え付けられている。利用者は、テレビやラジオ、 使い慣れた家具、家族との写真などを持ち込ん でいる。ベッドや家具等の配置は、居心地よく過 ごせるよう本人や家族と相談して決めている。居 室にエアコンはなく、夏場の日中はホールにて涼 んでいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づ くり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わ かること」を活かして、安全かつできるだけ 自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレ等には迷いなく行動できるように表 示づくり掲示して分かりやすくしている。月に1度 自主点検をおこない、危険個所の確認、改善す るよう点検している。			